

群 教 セ	G06 - 02
	平14.207集

仲間とのかかわりを通して 運動の楽しさを学ぶ、体育科指導の工夫

- 学び合いの活動を通して -

特別研修員 土屋 一子 （長野原町立北軽井沢小学校）

《研究の概要》

本研究は、学習過程の中に「学び合いの活動」を取り入れて、仲間とのかかわりを通して運動の楽しさを学ぶことをねらいとしたものである。具体的には、集団的スポーツであるサッカーの学習において、ふれ合う活動、教え合い認め合う活動、振り返る活動を取り入れていくことで、心と体のふれ合いを通し、互いが認め合える関係を築き、運動の楽しさを学べるようにしたものである。

【キーワード：体育 仲間 かかわり 学び合い サッカー】

主題設定の理由

体育科では、仲間と豊かにかかわりながら運動に取り組むことによって、各種の運動に親しみ運動が好きになるようにすることを学習指導要領改訂の方針としているが、そのような観点から本校の児童の実態を考えると、仲間とかかわり合いながら学習することを苦手とする児童が多い。

多くの児童は、各自それぞれの課題に対して一生懸命努力することができるが、仲間同士で見合い、教え合ったり、協力して活動したりすることが苦手である。また、自分の気持ちを押しさえ我慢をしたり、相手に合わせて行動したりすることを苦手としているように思われる。

その要因の一つとしては、小規模校であるとともに、本校の学区域が大変広く、放課後友達と一緒に遊ぶことや、下校後や休みの日など友達の家へ遊びに行き一緒に遊ぶことが少ないなどの地理的条件が考えられる。また、これまでの体育の授業の学習形態は教師主導の一斉型で進めることが比較的多く、仲間とともに学習を進めていく活動の時間が少なかったことや、一単位時間の学習が一人一人の技の習得に重きを置き、仲間と一緒に体を動かす楽しさや心地よさを味わう経験が少なかったこと、また集団的スポーツのよさである仲間とともに達成する喜びを味わう経験が少なかったことなどがあげられる。

そこで「学び合いの活動」を通して、仲間と一緒に体を動かす心地よさや、教え合ったり、協力し合ったりしてできるようになる楽しさを味わうことで、自分や仲間のよさに気づき、互いが認め合うことができれば、仲間の大切さを実感するとともに、仲間とのかかわりを通して運動の楽しさを学ぶことができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

学習過程に、学び合いの活動を取り入れていくことが、仲間とのかかわりを通して運動の楽しさを学ぶことに有効であることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 導入の過程において、学び合いの活動として「ふれ合う活動」を取り入れ、仲間と一緒に体を動かせば、心地よさや自分や仲間の心や体の状態に気づくことができ、仲間と運動する楽しさを味わうことができるであろう。
- 2 追求の過程において、学び合いの活動として「教え合い・認め合う活動」を取り入れ、運動の行い方や練習の方法を工夫すれば、チームや各自の課題を明確にすることができ、仲間と課題解決に取り組む楽しさを味わうことができるであろう。
- 3 まとめの過程において、学び合いの活動として「振り返りの活動」を取り入れ、自己評価をすれば、自分や仲間のよさに気づき、課題を達成した喜びやともに学んだ充実感を味わうことができ、運動する楽しさを学ぶことができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 仲間とのかかわりを通して運動の楽しさを学ぶとは

児童が楽しく運動できるよう、「仲間とのかかわり」に重点を置き、学び合いの活動を取り入れることとした。この学び合いの活動を通して、学ぶ楽しさとは、仲間と運動する楽しさやともに課題解決に取り組む楽しさ、できた喜びやともに学んだ充実感を味わう楽しさととらえた。運動すること自体が楽しい、自分が楽しいという段階から仲間とともに課題を解決していくことによって、より深い運動の楽しさを得られると考える。

(2) 学び合いの活動について

課題解決に向けて、仲間と一緒に練習したり、作戦を考えたりする場面で、「仲間とふれ合う」「認め合い、教え合う」「振り返る」という活動を「学び合いの活動」として考えた。

○「ふれ合う活動」とは

豊かなかかわりをもつためには、まず心や体の緊張をほぐすことが必要である。そこで、ふれ合う活動とは、体ほぐしの運動により、仲間とやさしい運動を通してふれ合いながら、心と体をほぐしていく活動である。この活動を通して、心地よさや、自分や仲間の体や心の状態に気づくことができ仲間と一緒に体を動かすことの楽しさを味わうことができると考えた。

○「教え合い・認め合う活動」とは

追求の過程において、仲間同士で練習の方法や作戦を考えたり、技能の高まりや態度などについて見合い、気がついたことなどを教え合う活動である。この活動を通してチームや各自の課題を明確にしたり、仲間と課題解決に取り組む楽しさを味わうことができるものと考えた。

○「振り返りの活動」とは

まとめの過程において、自己評価や相互評価、仲間と意見を交換する活動である。この活動を通して、自分や仲間のよさに気づき、課題を達成した喜びやともに学んだ充実感を味わうことができ、運動する楽しさを学ぶことができると考えた。

(3) 自分や友だちの「よさ」とは

「よさ」を児童の「よいところ」ととらえ、技能の内容、態度の内容、学び方の内容の3点から考えた。

技能の内容におけるよさ

運動の技能の内容にかかわるよさは、「技能の高まり」ととらえた。

態度の内容におけるよさ

態度の内容にかかわるよさは、「仲間と協力し合って運動できる」「互いの練習の様子を見

合い、気が付いたことを教え合うことができる」「仲間に教えてもらったことを素直に聞き入れることができる」「勝敗に対して正しい態度がとれる」「わがままを言わず、仲良く取り組める」など仲間とかかわる態度におけるよさととらえた。

学び方の内容におけるよさ

学び方にかかわるよさは、「自分たちのチームに合った作戦を考えている」「自分の役割を理解しゲームに参加している」など思考・判断におけるよさととらえた。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような計画で授業実践及び検証をする。

(1) 授業実践計画

対 象	長野原町立北軽井沢小学校 6年 (男子9名、女子9名 計18名)		
単 元	ボール運動(サッカー)	時 期・時 間	平成14年10月下旬から 8時間予定

(2) 検証計画

検証項目	検 証 内 容	検 証 方 法
見通し1	導入の過程において、ふれ合いの活動として主運動のサッカーにつながる風船サッカーやキックターゲットゲームを取り入れたことは、心地よさや自分や仲間の心や体の状態に気づき、仲間と運動する楽しさを味わうことに有効であったか。	・観察(児童のつぶやき) ・学習カードの記述の分析
見通し2	追求の過程において、チーム内で練習の様子や技能の高まり、態度などについて見合い、気が付いたことなどを教え合ったり、パスやシュートの仕方、練習の方法を工夫していく活動を取り入れたことは、チームや各自の課題を明確にすることができ、仲間と課題解決に取り組む楽しさを味わうことに有効であったか。	・観察(児童のつぶやき) ・学習カードの記述の分析
見通し3	まとめの過程において、学び合いの活動として「振り返りの活動」を取り入れ、自己評価や相互評価を取り入れたことは、自分や仲間のよさに気づき、課題を達成した喜びやともに学んだ充実感を味わうことができ、運動する楽しさを学ぶことに有効であったか。	・観察(児童のつぶやき・技能の評価) ・学習カードの記述の分析

(3) 抽出児童

A	ボール運動を得意と感じているが、チームワークを考えたプレーよりも個人プレーに走りがちである。学び合いの活動を通して、多くの仲間とかかわり合いながら運動する楽しさを学ばせたい。
B	自分の課題に対しては一生懸命努力することができるが、ボール運動を苦手と感じており、ゲームなどでは消極的になりがちである。学び合いの活動を通して、仲間と課題に取り組む楽しさを味わわせたい。

研究の展開

1 単元の考察、目標及び評価規準

単 元 の 考 察	サッカーは、攻守が入り乱れて、足を使ったパスやドリブルで攻め、ゴールにシュートをして、得点を競い合い楽しむ運動である。また、接戦場面が多く、ルールや作戦の工夫などでどちらのチームにも勝つチャンスが生まれる運動であり、チームのために貢献できた、活躍できたという満足感を味わえるよさがある。 単元を通して、チーム内の人間関係を大切にし、チームを重視する練習や作戦を考え、ゲームを工夫していくことで、仲間とかかわりを通して運動の楽しさを学ぶことができると考え、この単元を設定した。
目	・互いに協力し、役割を分担して練習やゲームを行うとともに、勝敗に対して正しい態度をとることができる。

標	・自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、チームや自己のめあてを達成するための練習方法を考えたりしている。 ・各ポジションの動きを理解し、足でボールを操作する技能を身に付け、連係プレーを生かしたゲームができる。	
評 価 規 準	おおむね満足できる状況 運動や健康・安全への関心・意欲・態度 ・仲間と協力し合い、練習の場を作ったり、ルールやマナーを守り、審判の判定に従ったりしている。 ・チームにおける攻防の役割を分担し、練習やゲームに取り組もうとしている。 ・運動する場や用具の安全に気を付けて活動している。	
	十分満足できる状況 ・仲間に積極的に働きかけ、協力し合いながら練習の場を作ったり、ルールやマナーを守り、審判の判断に従い公平な態度でゲームを行ったりしている。 ・チームにおける攻防の役割を分担し、進んで練習やゲームに取り組もうとしている。 ・進んで運動する場や用具の安全を確かめて活動している。	
	運動や健康・安全についての思考・判断 ・チームや自分に合った練習方法を選択してる。 ・自分の動きを意識してチームの作戦を考えている。	
	運動の技能 ・味方や相手からきたボールをつなぐことができる。	
	・チームや自己のめあてを達成するための練習方法を考え、選択したりルールを工夫したりしている。 ・ゲームの結果から、相手や自分のチームの特徴を生かした作戦を考えている。	
	・味方や相手の動きに応じて、パスの受けやすい位置や攻撃しやすい位置に動いてボールをつなぐことができる。	

2 指導計画（8時間）

過 程	時 間	学 習 活 動	学 習 活 動 へ の 支 援	評価項目・評価の方法・観点
つ か む	1	○オリエンテーションを行う。 ・単元の流れを知る。 ・体ほぐし的な運動及びシュートゲームをする。	・みんなで協力し、楽しくゲームをすることを説明する。 ・だれにでもできるやさしい運動やシュートゲームを取り入れることで、心地よさや自分の心や体の状態に気づくことができ、仲間と運動する楽しさを味わうことができるようにする。（見通し1）	仲間と一緒に体を動かすことで、心地よさや自分の心や体の状態に気づいたり、仲間と運動する楽しさを味わっている。（観察・学習カードの記述） 〔関心・意欲・態度〕
	2	・チーム編成をする。 ・ルールについて話し合う。	・チーム分けの基本的な考え方をみんなで確認する。 ・必要なルールは話し合いで決め、ルールは自分たちで作っていくことを説明する。	
追 求 す る	3	ねらい1 みんなで決めたルールでゲームを行う。 ・チームのめあてやルールを確認し、作戦会議を行う。	・チームのめあてやルールを全員で確認する。 ・反省を生かしながらゲームを行うようアドバイスをする。	・ルールを理解し、自分の動きを意識してゲームに参加している。（観察） 〔思考・判断〕 ・仲間とかわり、楽しく運動している。（観察・学習カードの記述） 〔関心・意欲・態度〕
	4	・ゲームを行い、試合後の反省を行う。 ・ゲームを行い、試合後の反省を行う。		
	5	ねらい2 ルールや作戦を工夫してゲームを楽しむ。 ・ゲーム 各チームの作戦に応じた練習をした後にゲームを行い、試合後の反省を行う。		
	6	・課題別練習 チームや自分の課題を明確にし、課題解決に向	・ゲーム後の反省を取り入れることで、次の試合に向け、それぞれのチームの課題や練習方法が考えられる	・チームや自分の課題を明確にし、課題解決に向け仲間とともに教

	7	け、同じ課題を持つ友達と協力し合いながら練習を行う。 ゲームでの反省を生かし、新たな作戦でゲームを行う。	よう適宜アドバイスをする。 また、自分の課題解決に向け、同じ課題をもつ友達と練習できる場を設定する。	え合っている。(観察) 〔思考・判断〕 ・味方や相手の動きに応じて動いている。(観察・学習カードの記述) 〔運動の技能〕
ま と め る	8	○サッカー大会をする。 ・リーグ戦を行う。 ○単元のまとめをする。 ・チームごとに話し合い感想を発表する。	・これまでの学習の成果が十分発揮できるよう、作戦を考えたり、練習を振り返る時間を確保する。 ・学習カードをもとに、これまでの学習を振り返るようアドバイスする。 ・これまでの学習を振り返り、自分や仲間・チームの変容を具体的にかけよう言葉掛けをする。 ・よくなった点などを、具体的場면을例にあげながら発表する場面を作る。 (見通し3)	・これまでのゲームの結果から、相手や自分のチームの特徴を生かした作戦を考えている。(観察) 〔思考・判断〕 ・相手や味方の動きに応じて動いている。(観察) 〔運動の技能〕 ・自己評価や相互評価する中で、自分や仲間のよさに気づいたり、課題を達成した喜びを味わうことができた。 (観察・自己評価カードの記述) 〔関心・意欲・態度〕

研究の結果と考察

- 1 導入の過程において、ふれ合う活動として主運動のサッカーにつながる体ほぐしの運動や簡単なゲームを取り入れ、仲間と一緒に体を動かす活動を取り入れたことは、心地よさや自分や仲間の心や体の状態に気づき、運動する楽しさを味わうことに有効であったか

導入の過程において、ふれ合う活動として風船運びや風船サッカー、簡単にできるキックターゲットゲームを取り入れた。チームを男女混合とし、技能差を利用することで、教え合いができる場を設定した。

Aは、心と体をほぐすためのふれ合う活動を始める際、次のキックターゲットゲームの方に気が向

いており、あまり興味を示していなかった。しかし、風船運びや風船サッカーが始まるとチームのみんなと仲良く楽しく取り組んでいた。

授業後に実施した気づきに関するアンケートの回答から、Aのみならず、多くの児童が自分や仲間の体の状態に気づくことができたことが分かる(次ページ資料3)。Bは初めは遠慮がちで、風船が自分のところに来て身を引きたり、動きや体に硬さが見られたが、チームのムードが盛り上がってくると、Bの体や動きから硬さが徐々とれ、仲間と歓声を上げながら夢中でボールを追いかけていた。A・Bともに初めに比べて、表情も和らいでいた。

資料1 風船サッカーの様子



資料2 キックターゲットの様子



ゲームは、1・2回戦は個人の得点で競うこととし、3回戦はそれぞれのチームの得点で競うこととした。Aは技能が高いということもあり、このキックターゲットゲームには、自信をもって取り組んでいた。申告通りの数字に当たったら得点プラス1点、シュート位置を2m下げたところからの場合はさらにプラス1点という申告制を起用して行った。2回戦目では、自分の得点を上げようと難しい課題を申告しては、一喜一憂しながら生き生きと活動していた。また、チーム対抗の3回戦の中では「俺が決めてやる」などと言いながら元気よく取り組んでいたが、チームの中で失敗した友達に対して「決めろよなー」など友達を責めるような言葉を発する場面が何度か見られた。Aの自己評価カードの「仲間とのかかわり」に関する項目には「が記されており、ゲームの中での自分の態度や仲間とのかかわり方について課題が残ったことに気づいていたと考えられる（資料4）。

項 目	はい いいえ	
自分の体に目を向けることができた	16	2
体の動かし方のポイントが分かった	15	3
友だちと自分の違いに気づくことがあった。	17	1
友だちを今までよりも身近に感じる事ができた。	16	2

期	練習問題										解答
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1											少しずつ上達して来た。
2	△	◎	◎	△	△	◎	◎	○	△		
3	○	◎	◎	△	△	△	△	△	△		非難を議論かめんでう
4	○	◎	◎	△	◎	◎	○	△	△		シュートを一つミスった。
5	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	△		もっとバスを回そうと思う
6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		バスをしかり回せた。
7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	△		声をかけあえた。
8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○		争ったけれども楽しかった。

[illegible]

仲間とかかわって運動する中で児童は心と体をほぐし、気持ちを合わせたり、相手のことを考えたりすることができるようになり、仲間とのふれ合いをも楽しむことができたと思う。

以上のことから、導入の過程に体ほぐし的な運動や簡単なゲームなど仲間と一緒に体を動かす活動を取り入れたことは、心地よさや自分や仲間の心や体の状態に気づき、仲間と運動する楽しさを味わうことに有効であったと考える。

- 2 追求の過程において、教え合い・認め合う活動を取り入れ、チーム内で運動の行い方や練習の方法を工夫をしていけば、チームや自己の課題が明確となり仲間と課題解決に取り組む楽しさを味わうのに有効であったか

追求する過程において、ルールや作戦を工夫してゲームを行うことをねらいとし、学習の流れを次のように考え、練習に取り組んだ。

チームごとに作戦やルールを考え練習をする。

自分たちで考えたルールでゲームを行う。

ゲーム後に反省し、互いを振り返る時間と次のゲームに向けて作戦やルールを考える（資料6）。

児童は、これまでに学習してきたことをもとにして、対戦相手と話合いを行い、互いのチームが納得した上で各チームが自分たちのルールを作りゲームを進めていった。見合い、教え合いをしていく中で、どのチームもサッカーを苦手とする児童や女子を優先とするルールを考え、仲間意識が高まっていった。

資料6 学び合いの活動



Bのチームは、Bにシュートをさせることをチームの目標とし、Bゾーンと特別な得点を提案した。これによりBはゾーンからのシュート練習に取り組んでいた。その際キーパーをやる児童が自分の練習を兼ね、Bにシュートのコツを教えながら一緒に練習に取り組む姿が見られた。ゲームの中でも、チームメイトはBにパスを回し、シュートをするチャンスを何度も与えていた。初めのうちは、周りの様子など見る余裕がなかったが、Bが失敗してもチームメイトは「ドンマイ、ドンマイ」と声を掛け、Bも謝るといような相手を思いやる姿が見られた。

ゲームを重ねていく中でチームの反省や他のチームのアドバイスなどから、ゾーンにこだわることなく広い範囲で動けるようになってきた。また、自分のところにパスされてきたボールを上手く味方につなぎ、シュートへと結びつけることもでき技能面においても向上が見られた。

「私はある日、手を使ってしまいました。高いボールが飛んできたので、つい手が出ちゃいました。でも、だれもせめる人がいませんでした。うれしかったです。」

これは、サッカーの授業を振り返ってのBの作文の一部（資料編参照）であるが、児童はチームごとにゲーム後の反省をし、作戦を考えたり、練習を工夫したりしていく中で互いを認め合える関係を築くことができたと考える。仲間とかがわることを苦手としていたBも仲間とともに学ぶ楽しさを実感できたと考える。

Aは6時間目の学習で、同じチームの中でサッカーを苦手とする友達に「ボールをよく見て」「しっかりボールの真ん中を蹴って」などのアドバイスをしながら一緒に練習をしていた。5時間目が終了した時の自己評価カードに「もっとパスを回そうと思う」と書いており、「何かがわかった」という項目にも記されていた。それ以降のAの自己評価カードの一口感想の中には自分のことだけではなく、チームの様子が書かれるようになっていった。

また、Aは作戦会議や試合後に行うチームごとの反省会に対しても初めのうちは「面倒」「てきとう、てきとう」と軽い態度で臨んでいたが、何度かゲームを行い話合いをし、作戦やルールを考えていく中で、その必要性を理解しチームの中で中心となり話合いに取り組むようになった。Aの書いたサッカーの授業を振り返っての作文からも分かるように、話合いに臨む気持

ちの変化やチームの仲間とのかかわり方、そして、チームプレーの大切さについて気付くことができたものとする（資料編参照）。

以上のことから、チーム内で作戦や練習の方法を考えたり、ゲーム後の反省をしたりする活動を取り入れたことは、自分やチームの課題に気づき、仲間と課題解決に取り組む楽しさを味わうのに有効であったと考える。

3 まとめの過程において、振り返りの活動を取り入れ、自己評価や相互評価をしたことは、自分や仲間のよさに気づき、課題を達成した喜びやともに学んだ充実感を味わったり、運動する楽しさを学んだりするのに有効であったか

まとめの過程において、振り返りの活動としてリーグ戦をしたり、話し合いをしたりした。リーグ戦を行う際、ゲーム後にクラス全員で反省会（振り返りの時間）を行うことを話し、試合を行っていないときは他のチームの良いところやアドバイスする点などをよく見ておくことを約束した。

このゲームでAは、自分が相手チームからボールを取ると必ずチームの誰かにパスを回すというゲームを展開していた。特にサッカーの苦手な仲間に対しては、取りやすいゆっくりしたボールを送ったり、全体の様子を見ながら仲間へ指示を出したりもしていた。

リーグ戦後の振り返りの活動の中で、他のチームの友達から「よくパスを回していた。」「A君が周りをよく見てみんなに指示を出していた。」などの意見があげられ、A自身も自己評価カードに「負けたけれど、楽しかった。」と書いていた。個人プレーに走りがちであったAに変容が見られたと考えられる（資料3）。

今回のリーグ戦ではBのチームが優勝。
Bは 学習カードに「みんなのおかげ！」と書いており、全体での発表は、資料7に示したとおりである。

以上のことから、振り返りの活動としてリーグ戦後にこれまでの学習全体の話し合いをする中で自己評価や相互評価を取り入れたことは、自分や仲間のよさに気づき、仲間と一緒に運動することの楽しさを学ぶことに有効であったと考える。

資料7 Bの学習全体を振り返って

☆ サッカーの学習を振り返って

「今までやっていたことのないルールがあって
よかったです。最初の方は少し
いじけたけど今はそんなことはないと思います。
「あーっ、おーっ」という掛け声も結構
でかい音も入るし、とってもいいと思います。
今までのサッカーの学習とっても楽しかったです。
ありがとうございました。」

研究のまとめと今後の課題

- 学び合いの活動として、体ほぐし的な運動や簡単なゲームを取り入れたことによって、心と体のふれ合いを通し、仲間と一緒に運動する楽しさを味わうことができたものとする。
- サッカーという集団的スポーツを行っていく中で、仲間とともに課題解決に向け練習をしたり、自己評価や相互評価をしていく活動を取り入れたことで、互いが認め合える関係を築くとともに、仲間と一緒に課題解決に取り組む楽しさや運動する楽しさ、達成する喜びを学ぶことができたと考える。
- 本研究では、仲間とのかかわりを通して、運動の楽しさを学ぶことをテーマに授業実践をしてきたが、技能面の向上という点においては課題が残った。仲間とのかかわりを大切にしながら、個々の基礎的な技能が向上するよう学習計画及び支援の工夫をしていきたい。

参考文献 高橋 健夫他「学校体育」 日本体育社 （2000）

松田 恵示・山本 俊彦「かかわりを大切にした 小学校体育365日」 教育出版(2001)